悪性耳下腺腫瘍（耳下腺癌）

耳下腺癌に対する治療方針を表 1 に示す。1999 年 9 月～2023 年 10 月までの約 25 年間に耳下腺癌 264 例の治療を行った。2010 年以降症例は増加し、年間 10～20 例の症例を扱った。治療は inoperable 症例を除いて手術治療を中心に行った。治療方針はステージと悪性度に従って決定した。

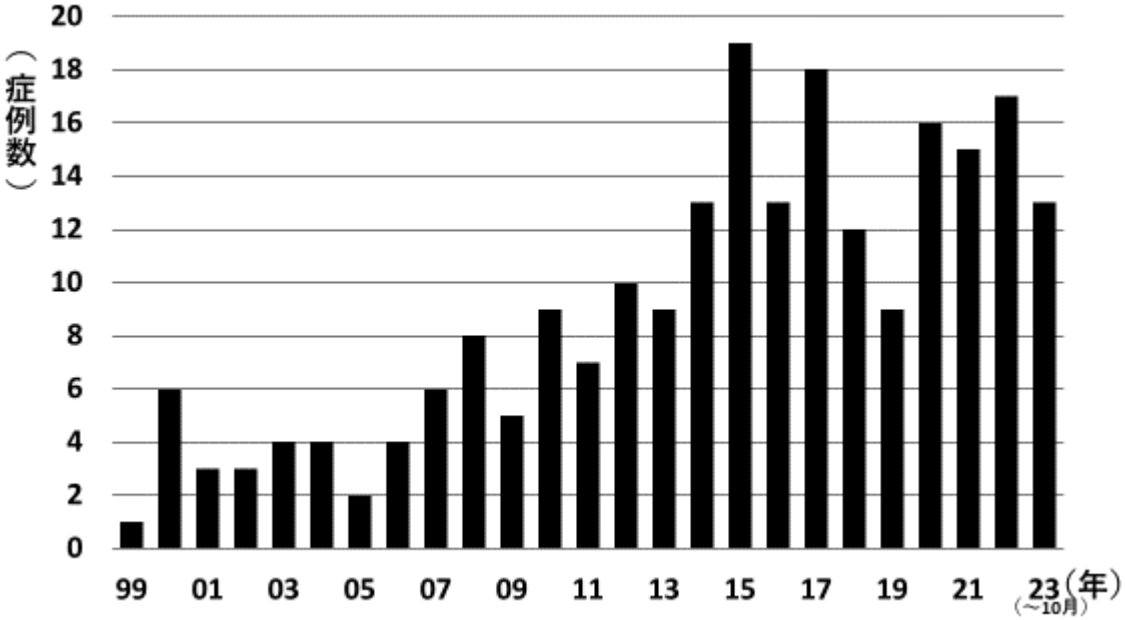

図 1：耳下腺癌の年度別症例数

1999 年 9 月～2023 年 10 月までの手術症例数。2010 年以降では年間 10～20 例の治療を施行した。

ステージと悪性度により決定する

・局所

高T・高悪性・・・（亜）全摘（顔面神経切除）
低T・高悪性・・・葉摘出・下半切除（顔面神経の処理は症例による）
高T・低/中悪性・・・葉摘出～亜全摘（顔面神経の処理は症例による）
低T・低/中悪性・・・葉部分切除(顔面神経温存）
＊顔面神経切除の場合は、可能ならば神経再建

・頸部

N+・・・全頸部郭清（耳下腺周囲、浅頸リンパ節含む）
高悪性・N0・・・選択的頸部郭清
低/中悪性・N0・・・頸部郭清なし
＊選択的頸部郭清は、レベルII、III、Vの上方とする
（耳下腺周囲、浅頸リンパ節含む）

表 1：耳下腺癌の治療方針

	低/中悪性	高悪性
粘表皮癌	38	33
多形腺腫由来癌	16	22
腺様嚢胞癌	24	6
唾液腺導管癌	0	30
分泌癌	17	0
腺房細胞癌	17	0
基底細胞癌	14	0
上皮筋上皮癌	14	0
扁平上皮癌	0	9
腺癌NOS	0	6
筋上皮癌	5	0
その他	5	8
計	150	114

表 2：耳下腺癌の病理組織型

多い順に粘表皮癌、多形腺腫由来癌、腺様嚢胞癌、唾液腺導管癌であった。悪性度別では低/中悪性が 150 例、高悪性が 114 例であった。

Stage＼悪性度	低	中	高	計
I	11	20	5	36
II	13	66	16	95
III	0	19	15	34
IV	4	17	78	99
計	28	122	114	264

表 4：耳下腺癌のステージと悪性度の関係

ステージが上がるほど悪性度も高い傾向があったが、ステージ IV の低/中悪性が 21 例、ステージ I の高悪性が 5 例認められた。

	OMC分類	症例数
1-1	検体不適正	30
1-2	嚢胞内容液	7
2	非腫瘍性	6
3	意義不明な異型	5
4-1	良性腫瘍（組織型確定）	16
4-2	良性腫瘍（組織型非確定）	16
5	良悪性不明な腫瘍	38
6-1	悪性疑い	17
6-2	悪性（悪性度非確定/組織型非確定）	26
6-3	悪性（悪性度確定）	30
6-4	悪性（悪性度非確定/組織型確定）	70

表 5：耳下腺癌に対する穿刺吸引細胞診

OMC 分類に従って穿刺吸引細胞診の結果を分類した。悪性度が確定（6-3 および 6-4）できた症例は 38%であった。悪性と診断できた症例は 55%であった。

T＼N	N0	N1	N2a	N2b	N2c	計
T1	35	2	0	0	0	37
T2	96	2	0	8	0	106
T3	25	4	0	7	0	36
T4	48	7	0	27	3	85
計	204	15	0	42	3	264

表 3：耳下腺癌の TN 分類別症例数

T1 が 37 例、T2 が 106 例、T3 が 36 例、T4 が 85 例であった。N+症例は 60 例（22.7%）であった。ステージ別ではステージ IV が 37.5%を占めた。

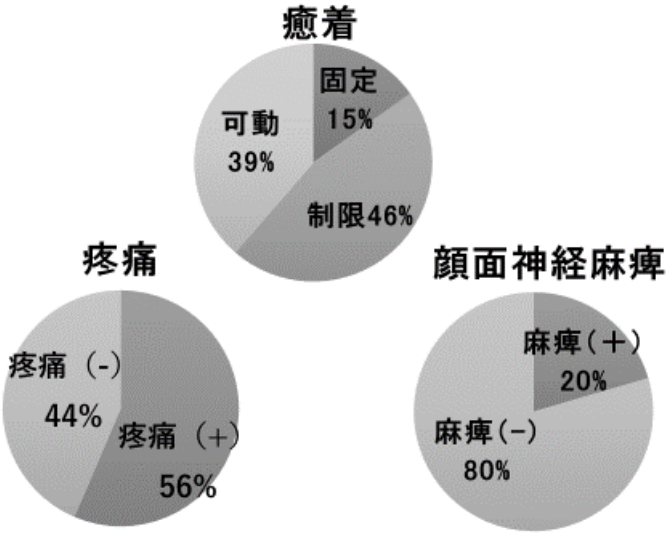

図 2：耳下腺癌の症状

耳下腺癌の悪性三徴候、疼痛、周囲組織との癒着、顔面神経麻痺を検討した。疼痛は 56%、癒着は 61%、顔面神経麻痺は 20%の症例で認められた。

T分類（症例数）	悪性度と症例数		pN+（69例）	pN+の頻度
T1（37）	高	5	0	2/37（5.4%）
	低/中	32	2	
T2（110）	高	29	10	13/110（11.8%）
	低/中	81	3	
T3（37）	高	19	14	15/37（40.5%）
	低/中	18	1	
T4（80）	高	61	37	39/80（48.8%）
	低/中	19	2	
計 264例	高悪性	114	高 61/114（53.5%）	
	低/中悪性	150	低/中 8/150（3.3%）	

表 6：耳下腺癌のリンパ節転移

T 分類別の pN+は T1 から T4 でそれぞれ、5.4%、11.8%、40.5%、48.8%であった。悪性度別では高悪性で 53.5%、低/中悪性で 3.3%であった。

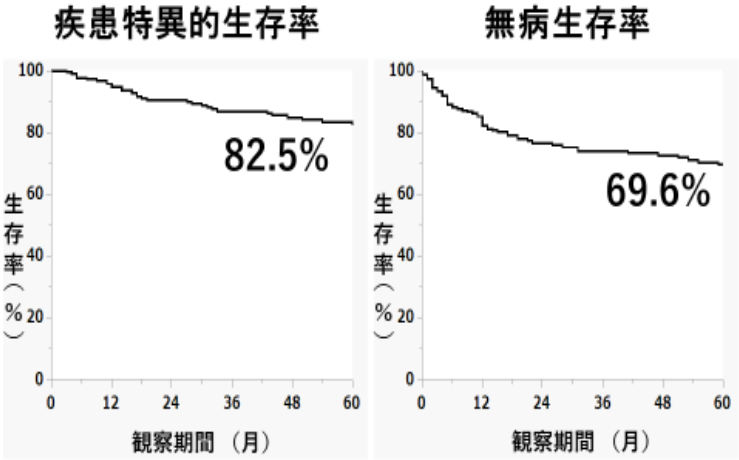

図 3：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―全症例（223 例）

全症例の疾患特異的 5 年生存率および無病生存率はそれぞれ 82.5%、69.6%であった。

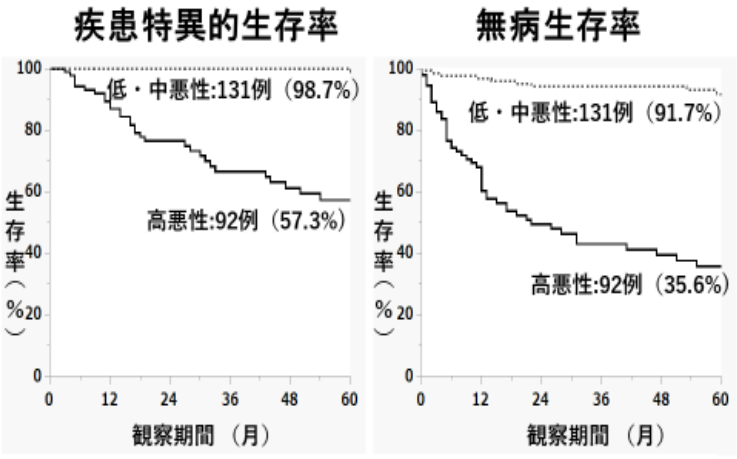

図 4：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―悪性度別（223 例）

低/中悪性度の疾患特異的 5 年生存率および無病生存率はそれぞれ 98.7%、91.7%であった。高悪性の疾患特異的 5 年生存率および無病生存率はそれぞれ 57.3%、35.6%であった。

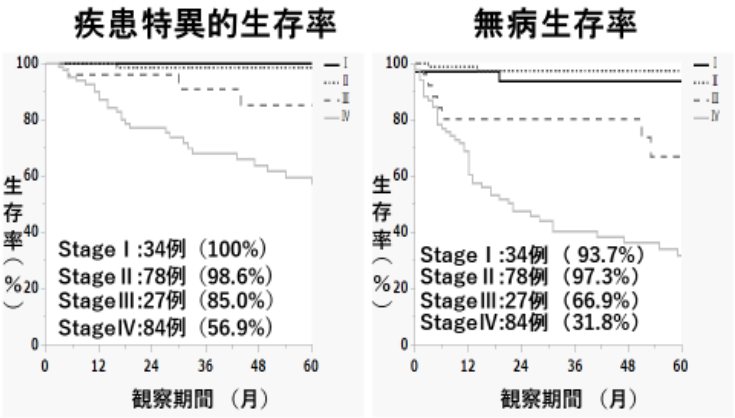

図 5：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―ステージ分類別（223 例）

ステージ別の疾患特異的 5 年生存率はステージ I から IV でそれぞれ 100%、98.6%、85.0%、56.9%であった。無病生存率はステージ I から IV でそれぞれ 93.7%、97.3%、66.9%、31.8%であった。

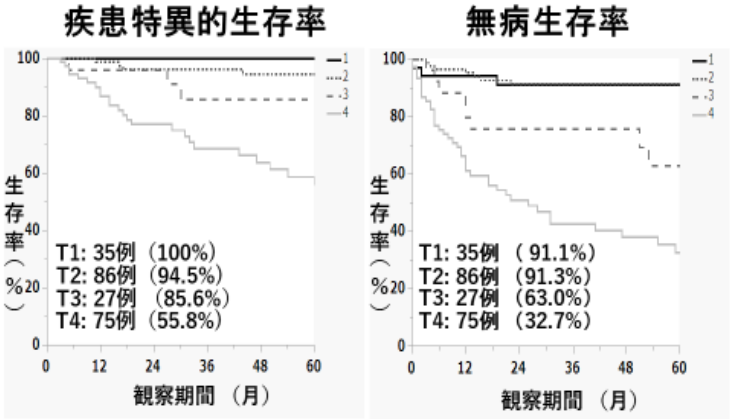

図 6：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―T 分類別（223 例）

T 分類別の疾患特異的 5 年生存率は T1 から T4 でそれぞれ 100%、94.5%、85.6%、55.8%であった。無病生存率は T1 から T4 でそれぞれ 91.1%、91.3%、63.0%、32.7%であった。

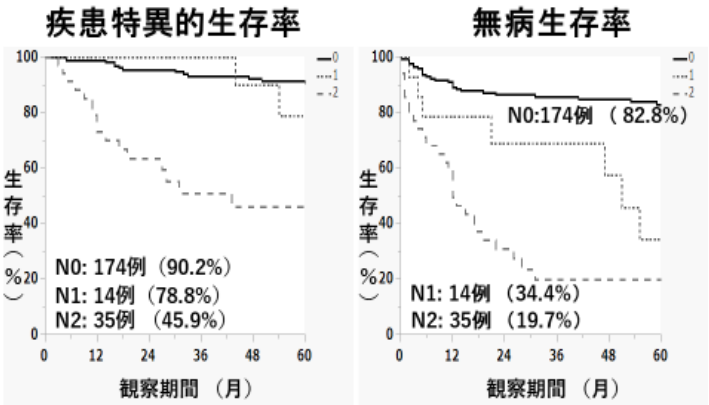

図 7：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―N 分類別（223 例）

N 分類別の疾患特異的 5 年生存率は N0 から N2 でそれぞれ 90.2%、78.8%、45.9%であった。無病生存率は N0 から N2 でそれぞれ 82.8%、34.4%、19.7%であった。

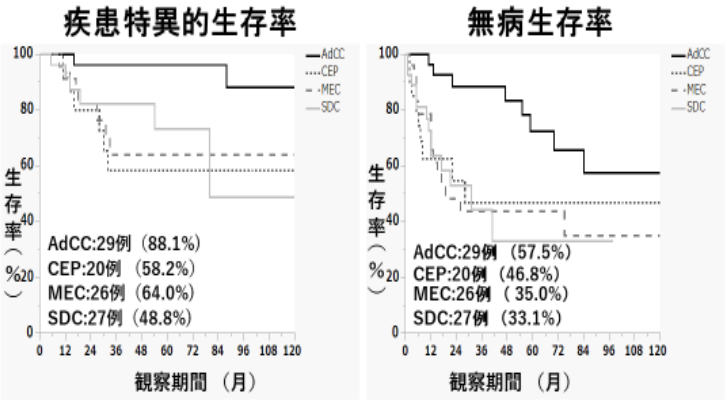

図 8：耳下腺癌の疾患特異的生存率および無病生存率―四大高悪性別

四大高悪性―腺様嚢胞癌（AdCC）、多形腺腫由来癌（CEP）、粘表皮癌（MEC）、唾液腺導管癌（SDC）の疾患特異的 10 年生存率および無病生存率を示した。AdCC、CEP、MEC、SDC の疾患特異的 10 年生存率はそれぞれ 88.1%、58.2%、64.0%、48.8%であった。無病生存率はそれぞれ 57.5%、46.8%、35.0%、33.1%であった。なお AdCC はすべての組織亜型を含めた。